

町史

とっておきの話

282

福島県植物研究会会長

薄葉 うすば

満 みつる

ただみ水田雑草考 ③

只見町の水田雑草相の特徴

水田雑草の種類は、県内どこへ行っても大きな違いはありません。それは田起し、除草、施肥、水管理といった人為に適切できる植物の種類が限られているからなのです。とはいえ、会津地方と浜通り地方とは自然条件はもとより営農の方法も異なりますから、ある程度の違いは認められます。

タイワンヤマイは、福島県全体としてはややまれな植物で

す。ところが、只見町の耕作田では出現頻度およそ五〇%、つまり調査した田んぼ二筆に一筆の割合であられるのです。しかも特定の地区にかたよらず、少しずつ町内一円に分布しています。この仲間は、ほかにホタルイ、イヌホタルイ、コホタルイも確認されましたが、かつて東北農業試験場にいた住吉正さんは、只見町はとくにタイワンヤマイが多い地域であることを

二〇年以上前に指摘しています。二〇一三〜二〇一四年の筆者の調査でも、これら四種の中ではタイワンヤマイがもっとも優勢であることが再確認されました。除草剤に対する感受性はイヌホタルイとあまり変わりがないのに、どういう理由からなのでしょう。住吉さんによれば、東北地方では秋田県中央部の雄物川流域でもこのような傾向があるそうです。なるほど、大きな川の流域かつ豪雪地帯であるという点では只見町と共通しています。はつきりしたこと

はまだわかりませんが、このような自然条件が、たとえば秋の不耕起（転）といった従来の耕種的条件と複合して、本種の越冬や発芽などに有利に働いてきたのかもしれない。

ミズマツバは、暖地系の小形



▲ウリカワ(2012年9月、小川)



▲ミズマツバ(2012年9月、蒲生)

の植物で、これまで会津地方には記録がありませんでしたが、二〇一二年に蒲生地区の二か所の田んぼで初めて見つかりました。福島県では減少が著しく、絶滅危惧Ⅰ類と評価されている種類です。同じ暖地系のウリカワも、福島県では、いわき市以外では珍しい植物です。しかし、「会津只見の自然（只見町史資料集第四集）」（二〇〇一年）には樺戸地区が記録されており、二〇一二年および二〇一四年には小川地区や坂田地区の田んぼでも見つかりました。坂田地区は福島県でもっとも高所に位置する生育地と思われます。さらに、首都大学東京牧野標本館に

は、一〇〇年以上前に只見町で採られた標本が収蔵されているのです。このように、冬期寒冷な気候にもかかわらず、暖地系の意外な植物が生育しているということも只見町の水田雑草相の特徴といえるでしょう。



▲タイワンヤマイ(2012年9月、叶津)